

北葛岳・蓮華岳・針ノ木岳へ 2018.7/23～25 単独行

20年ほど前にこのコースは歩いているが、どうしても又歩きたくなった理由は、ここ2年間冬期間大町市内でアルバイトをしていたが、そこから天気の良い日は何時も蓮華岳～蓮華の大下り～北葛岳～船窪台地を展望していた。もう体力的に北アルプスの縦走登山は今年が最後になるだろうからラストチャンスで今年の山行の最優先候補だった。当初は扇沢～針ノ木小屋(泊)～針ノ木岳～蓮華岳～船窪小屋(泊)～七倉のコースで、針ノ木雪溪の残雪が多い7月上・中旬だった(夏道歩きを少なくして楽に登る為に)。所が天候不順でとうとう下旬になってしまった。しかも23日の針ノ木小屋が100名以上の予約で混雑するとの事で標高差が大きくなって(扇沢登山口標高が1433M、七倉登山口は1050M、蓮華の大下りの標高差は500M)大変であるが逆コースにした。

7/23 (月、快晴) 自宅 5:27～6:00 扇沢(下山時の車置いて) 6:05～6:30 七倉 6:45～8:25 唐沢のぞき 8:30～10:10 鼻突八丁 10:20～11:30 天狗の庭 11:45～12:30 船窪小屋(泊) 泊り客13名

7/24 (火、快晴) 6:00～8:00 北葛岳 8:25～9:15 北葛乗越 9:20～11:45 蓮華岳 12:10～13:00 針ノ木小屋(泊)

7/25 (水、晴れ) 6:15～7:10 針ノ木岳 7:40～8:40 針ノ木小屋 8:50～9:40 アイゼン装着～10:20 アイゼン脱ぐ 10:30～11:05

大沢小屋 12:00~13:15 扇沢P 13:25~ (大町温泉上原の湯で入浴)

14:40 帰宅

七倉登山口からいきなりの急登が始まる。ブナ中心の樹林帯であるが暑くて大汗かきながら頑張る。船窪小屋の愛好者達が案内標や標高差 140M毎に 10分のいくつで表示版を設置してくれてあるのには有難かった。

七倉登山口



標高 140M毎に表示される



(七倉登山口から船窪小屋間の標高差が 1400Mなので) 登山道も天狗の庭までは完璧に整備されていた。唐沢のぞきからは名前の通り餓鬼岳から延びる唐沢岳が望めた。鼻突八丁もそれほど苦勞せずに超えられた。下りは膝が弱くなったが、登りはまだまだ心肺機能も含めて元気のような。何故かここまではほとんど花がなかった。珍しい登山道である。天狗の庭で槍ヶ岳等の展望を楽しみながら早昼食べる。以降小屋までは樹林帯でないのもとても暑かった。途中の高山植物帯は規模が小さくて写真は撮らなかった。懐かしい船窪小屋(3度

目の宿泊、3年前にテント泊した時にもテント料の支払いや缶ビールを購入に寄った)に早く着いたが暑いので小屋内でビールを飲んだり、小屋番・登山者と歓談していた。500MLが400円とばか安で4本も飲んでしまった。(昨年からの持越し品で安かった)ネパールから2名の小屋番が来ていた。名物ご夫婦は経営を子供に任せたので、今年は全く来ないとの事だ。テレビで何回も報道された小屋なのでファンクラブ風の人も多く訪れる特徴ある小屋である。北アルプスでは珍しいランプの小屋でもある。天気の良い日は外のテーブルで食事を食べる珍しい小屋だが今日は宿泊者が少ないので小屋内だった。小屋番も泊り客もアットホームな人達でユックリできた。それにしても気温が高くてとうとう1日中長袖シャツは着なかった。

24日は小屋番さん達が手を振ってくれる中をまずは七倉岳(2509M)へ。七倉乗越まで一度下って、北葛岳(2551M)への登りになる。

高瀬ダムと槍ヶ岳～前穂高岳



見送りを受けて船窪小屋を出る



北葛岳からは300Mほど下って北葛乗越、そこから蓮華の大下りの標高差523Mの蓮華岳への登りになる。コマクサの大群生地の中を登り続ける。

北葛岳山頂



白のコマクサ



最初は富士山のような歩きずらい登山道で後半は石畳み風の道になる。疲れな
いように、展望を楽しんだり、花を眺めたりしながら兎に角蓮華岳山頂を目指
す。最初にこのコースを歩いた時はこの登りの苦勞も感じず、蓮華岳を越えて
その日に雪溪を下って扇沢へ下山したが、今回は年を取って体力が落ちたので
針ノ木小屋泊の2泊三日である。

これから登る蓮華の大下り、奥は針ノ木岳。



蓮華岳山頂には大町市の若一王子神社の奥社が



白いコマクサも4か所で見ることができた。それにしてもコマクサの数や面積で
は日本でもトップクラスであろう。蓮華岳山頂には大町市の若一王子神社の奥
社がある。丁度 7/21～22日がお祭りであったので、氏子達が登って来た

ろう。登山者がようやくチラホラ見られるようになってきて、針ノ木小屋に着いた。ここの峠は3年前に釣友と扇沢から登り、針ノ木谷出合いへ下ってテント泊したが重いザックを背負ってなのであのころは元気だったのだ。ただ不思議な事に針ノ木沢の最上流だと言うのに全くイワナっ気が無かった。40分ほど下流からは釣れたが。

この小屋は10回近く通るが泊まるのは今回が初めてである。まずは缶ビールを飲む、丁度昨日船窪小屋で一緒だった、東京からの女性が昼飯を食べに来たので又山談義をするがこの女性はソロで縦走するだけあって只者では無い山の通である。明日は冷池山荘まで行くとの事。部屋は男のみ単独行中心の70歳代で10人部屋に8人詰め込まれて(空き部屋がいくつもあったが)暑いので山談義が始まった。標高が2536Mもあるのに小屋内も暑かった。異常気象である。

25日は針の木岳を往復してから雪渓を下山。小屋から山頂は1時間、標高差約300M、高山植物も多い。往路は花の写真は撮らず、下山時にユックリ花見・撮影をする事に決める。山頂から大好きな剣岳を望むが何故かスッキリ晴れてないので綺麗な写真は諦める、昨日の蓮華岳山頂からもそうだったが。

針の木小屋から針ノ木岳へ



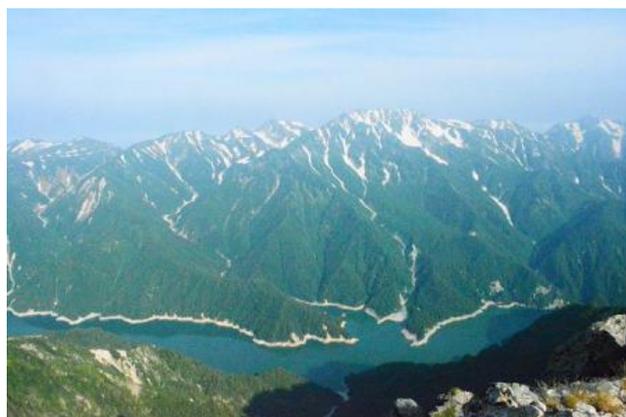
今回の山行で一番残念だったのは劔岳が近くでハッキリ姿を見せなかった事だ。眼下に黒四ダム、劔岳～立山～薬師岳～槍ヶ岳、そして2度歩いたスバリ岳～赤沢岳～鳴沢岳～岩小屋沢岳の山並みの展望を楽しむ。もう体力的にも最後だと思って。 ↓針ノ木岳頂上



針ノ木雪渓を軽アイゼン装着で下る。
予想以上に雪渓が残っていて助かった。
途中でマウンテンバイクを背負った若者が登って来た。峠からどちらのコースに行くにも自転車に乗れるところは

蓮華岳の山頂前後位しかないと思うのだが。

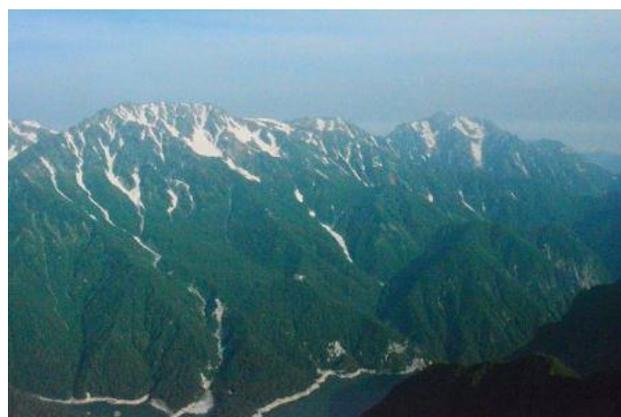
黒四ダム、薬師岳。



イワツメクサ



劔岳～立山



タカネヤハズハハコとウサギギク



針ノ木雪渓を下る



無事に扇沢へ下山



昔三郷スカイラインから大滝山を日帰り登山をした時に自転車の若者とすれ違ったが。雪渓の終わる所には仮橋が架けてあり、夏道35分で大沢小屋に着いた。針ノ木小屋の小屋番の女性も休暇で東京へ帰るとの事でおしゃべりしたりで時間が経った。下山後は何時ものように250円で入浴できる上原の湯へ寄る。空いていてユックリ汗を流せてサッパリした。暑かったけど、天候に恵まれて、小屋も混まずに、花も豊富でバテル事も無く良い山行であった。又体力も確実に低下していて、今後アルプスに登るには今まで日帰りだった、白馬岳・唐松岳・爺ヶ岳・針の木岳・蓮華岳・燕岳・常念岳・蝶ヶ岳等も小屋泊でないと無理な事が分った。一日のコースタイムは6時間が限度のようだ。歳は取りたく無い。なお咲いていた花等はブログに掲載します。

赤沼 健治